

五島市岐宿町山内地区 地域管理構想

2024（令和6）年5月

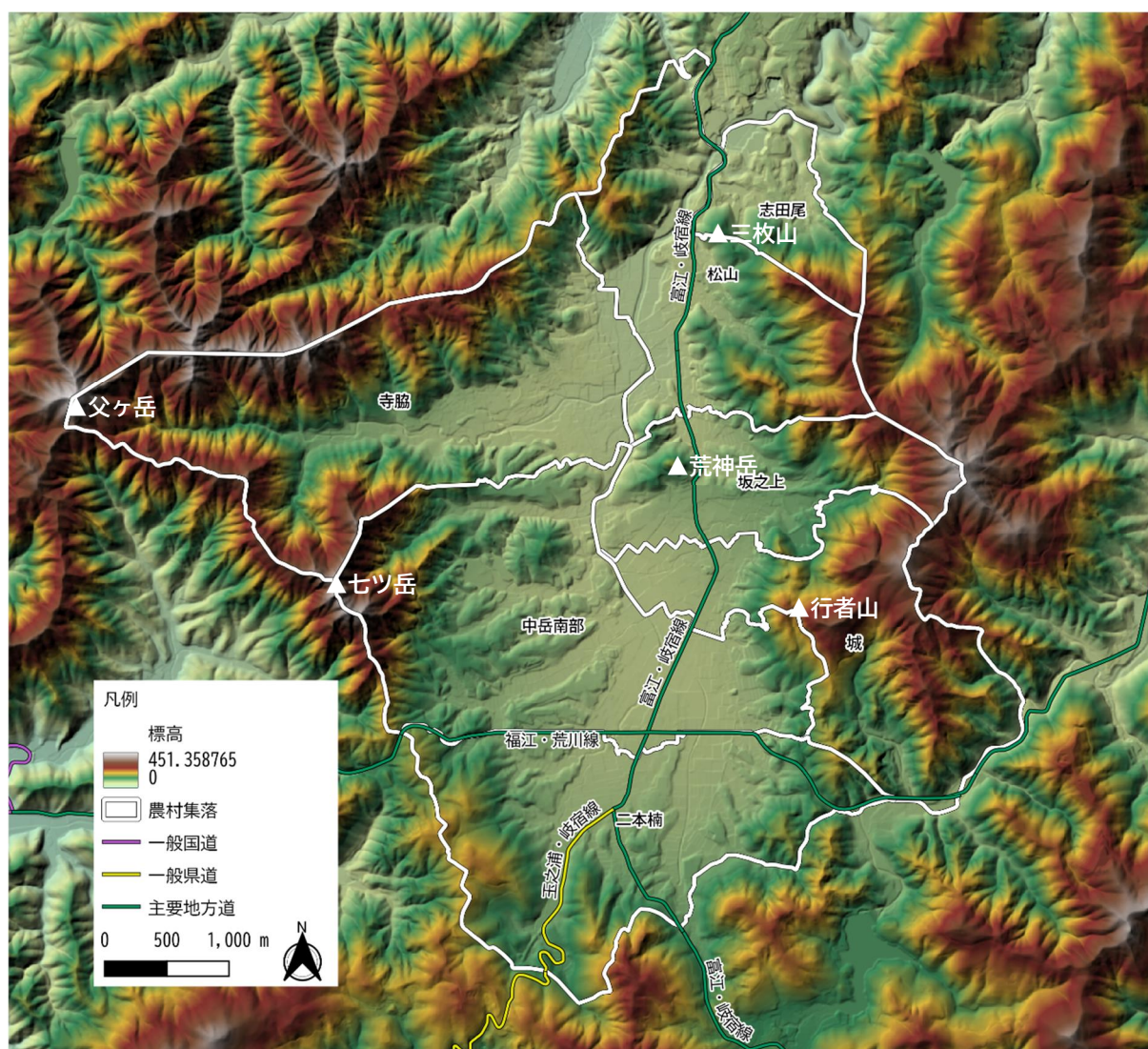
目 次

1	地域の現状と課題.....	1
	（１）地域の概況.....	1
	（２）各集落の人口・世帯の状況.....	3
	（３）農業の状況.....	6
	（４）就業の状況.....	8
	（５）土地利用の状況.....	10
	（６）地域資源.....	15
	（７）地域課題.....	16
2	地域全体の土地利用の方向性.....	18
3	実現に向けた行動計画.....	21
4	地域としてのルール.....	22
5	実現に向けた取り組み体制.....	23

1 地域の現状と課題

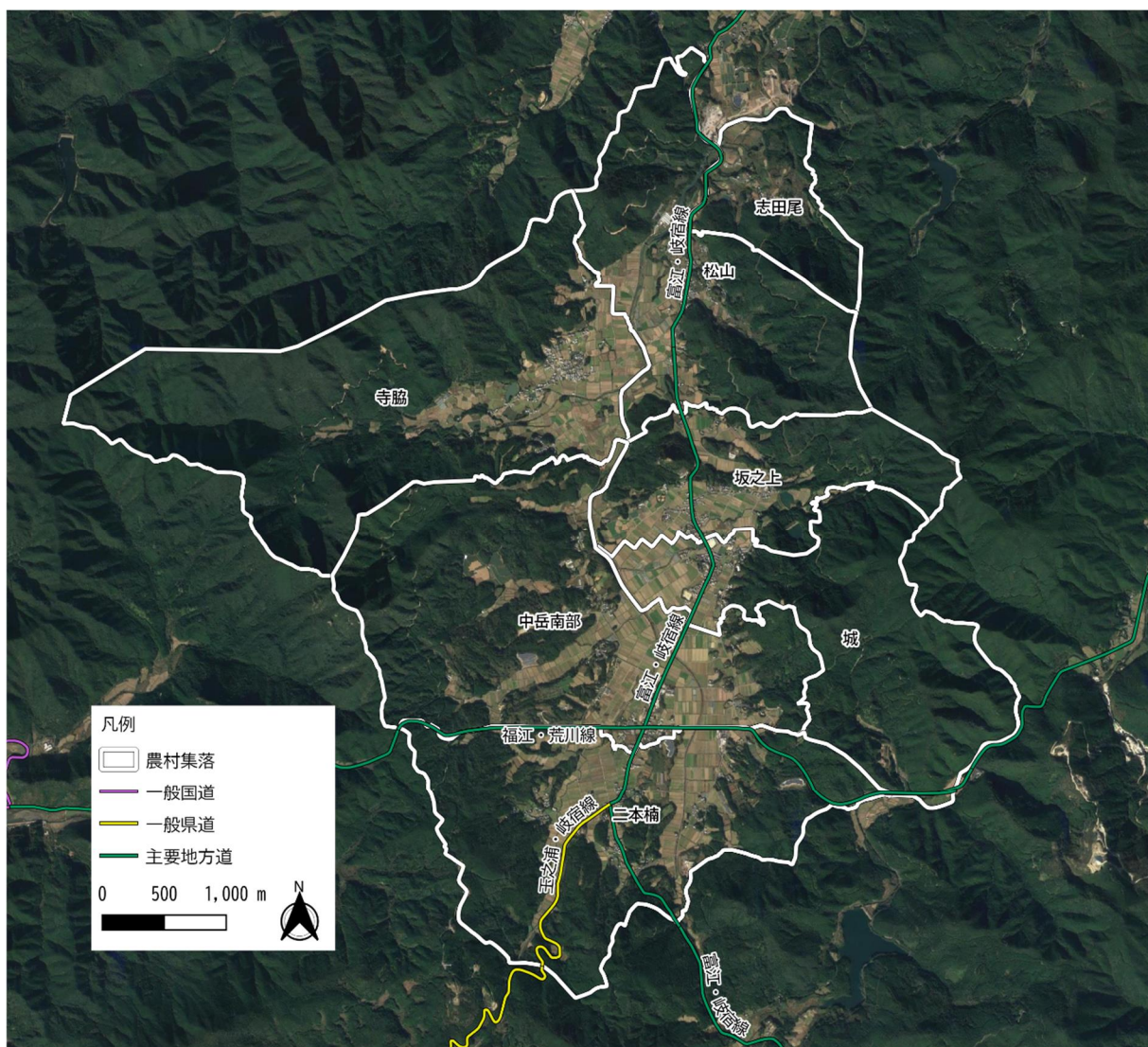
(1) 地域の概況

- ・ 山内地区は、五島列島最大の島である福江島のほぼ中央部に位置し、五島つばき空港から山内地区まで約 17km（車で約 25 分）の場所に位置している。
- ・ 山内地区は、7つの農業集落で構成されている。
- ・ 標高 400m前後の山々に囲まれ、集落の内部は標高 60～70m前後の盆地状の平地となっており、水田が広がっている。また、地区中央を南北方向に、二級河川鰐川が流れている。
- ・ 平地には南北方向に主要地方道富江岐宿線、東西方向に主要地方道福江荒川線が通っている。



地形の状況

（出典）基礎地図情報「数値標高モデル」、五島市データ、
農業集落境界データ（2020年農林業センサス）

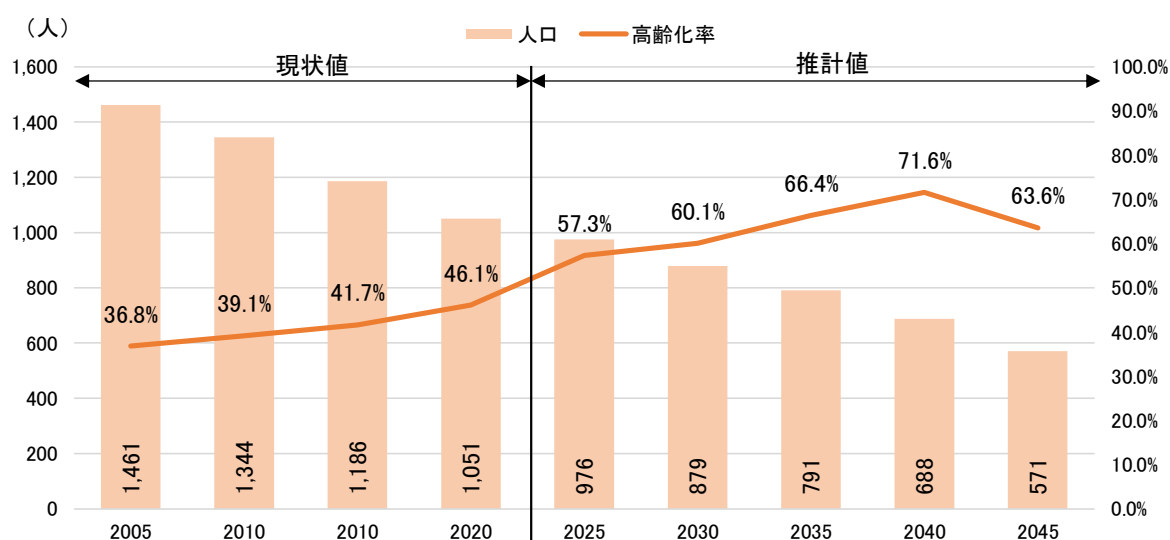


農村集落の位置図

(出典) 地理院地図、五島市データ
 農業集落境界データ (2020 年農林業センサス)
 Google Satellite

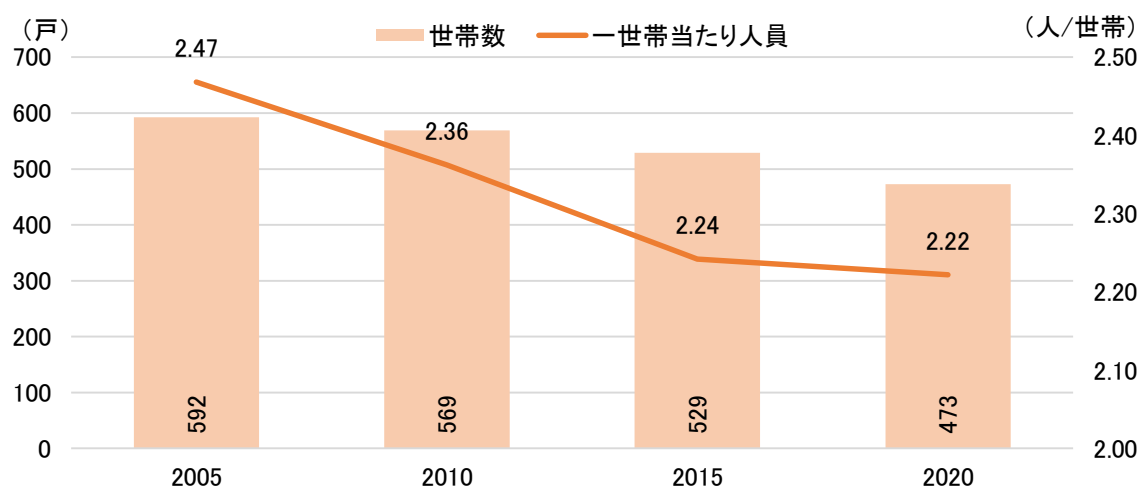
(2) 各集落の人口・世帯の状況

- ・山内地区の人口は、これまで減少傾向を示しており、2020 年で約 1,000 人となっている。
- ・今後も減少傾向が続き、農林水産省による推計では 2045 年には 600 人を切ると予測されている。
- ・山内地区の高齢化率は 2020 年で 46.1%であり、2040 年には 71.6%まで上昇すると予測されている。
- ・山内地区の世帯数は、人口同様に減少傾向にあり、2020 年には 500 世帯を切り、1 世帯当たり人員は 2.22 人/世帯まで低下している。
- ・集落別の人口の増減率をみると、2005 年比で最も減少しているのは-51.0%の志田尾となっており、次いで-36.8%の寺脇、-31.9%の松山となっている。
- ・集落別の高齢化の状況をみると、最も高齢化率が高いのは 61.8%の二本楠となっており、次いで松山及び寺脇で 45.3%となっている。



山内地区における人口及び高齢化率の推移

(出典) 2005 年～2020 年：総務省「国勢調査」、2025 年～2045 年：農林水産省「将来人口推計」



山内地区における世帯数及び一世帯当たり人員の推移

(出典) 総務省「国勢調査」

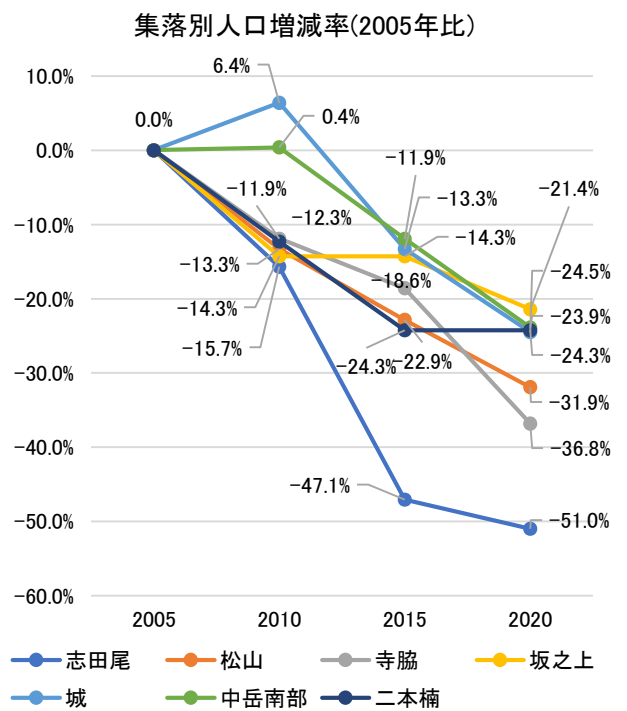
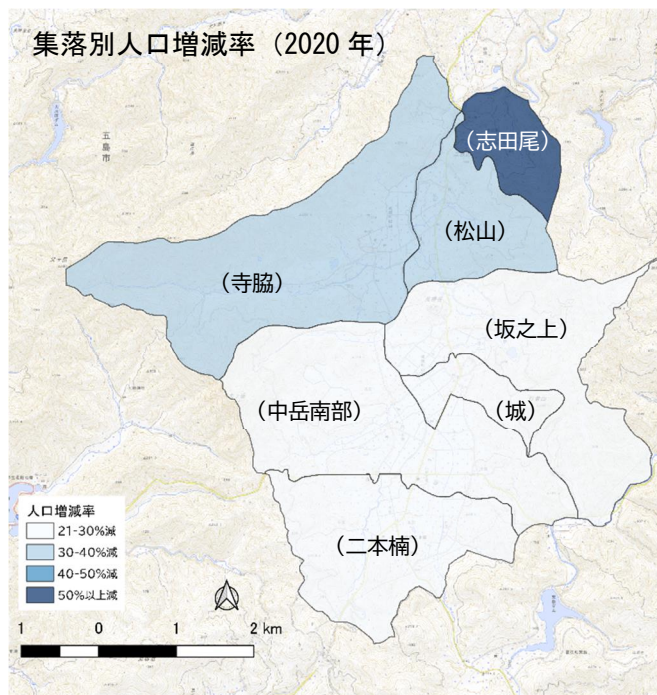
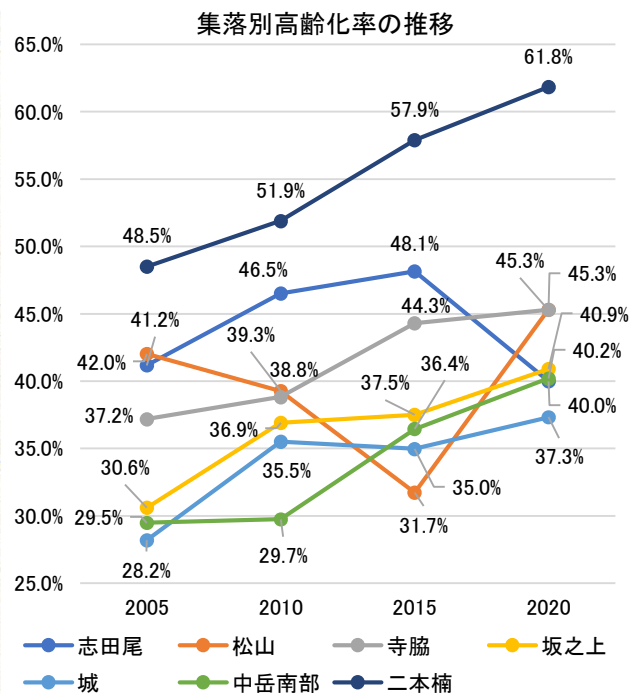
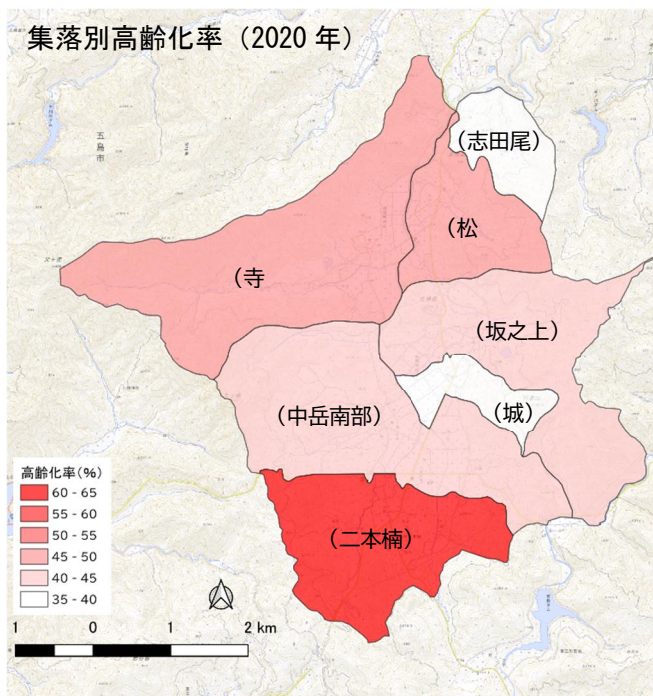


表 山内地区における集落別人口の推移

(単位：人)

	2005	2010	2015	2020
志田尾	51	43	27	25
松山	188	163	145	128
寺脇	269	237	219	170
坂之上	196	168	168	154
城	188	200	163	142
中岳南部	268	269	236	204
二本楠	301	264	228	228
合 計	1,461	1,344	1,186	1,051

(出典) 総務省「国勢調査」



山内地区の老齢人口の推移

(単位：人)

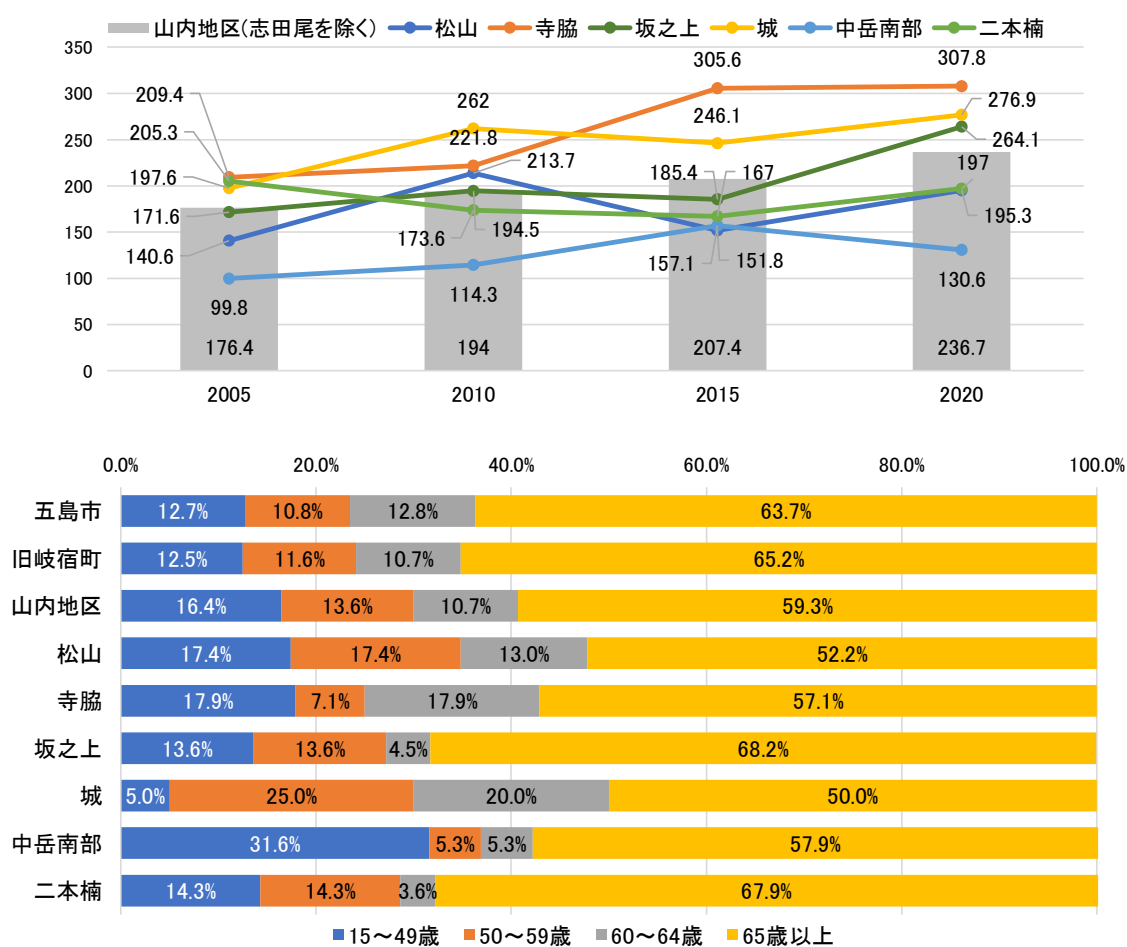
	2005	2010	2015	2020
志田尾	21	20	13	10
松山	79	64	46	58
寺脇	100	92	97	77
坂之上	60	62	63	63
城	53	71	57	53
中岳南部	79	80	86	82
二本楠	146	137	132	141
合 計	538	526	494	484

(出典) 総務省「国勢調査」

(3) 農業の状況

- ・農業経営体当たりの耕地面積は、山内地区全体で増加しており、集落別に見ると中岳南部を除き 2005 年より増加傾向にある。
- ・山内地区全体で 65 歳以上の割合が約 60%弱で、五島市及び旧岐宿町より若干低くなっている。集落別にみると、城及び松山集落で 65 歳未満の割合が高く、坂之上及び二本楠集落は 65 歳以上の割合が 65%以上と高い。城集落は 50～59 歳が、中岳南部集落は 50 歳未満の従業者割合が高い。

経営体当たり耕地面積の推移



年齢区分別基幹的農業従業者割合 (2020)

(出典) 農業センサス

年齢区分別基幹的農業従業者割合（2020）

（単位：人）

	15～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	計
五島市	129	110	130	647	1,016
旧岐宿町	28	26	24	146	224
山内地区	23	19	15	83	140
松山	4	4	3	12	23
寺脇	5	2	5	16	28
坂之上	3	3	1	15	22
城	1	5	4	10	20
中岳南部	6	1	1	11	19
二本楠	4	4	1	19	28

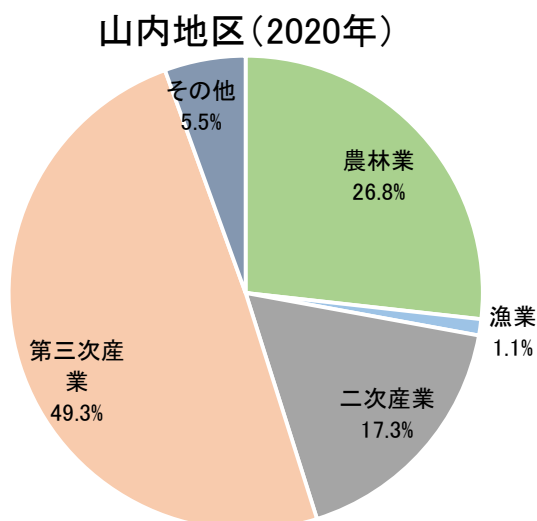
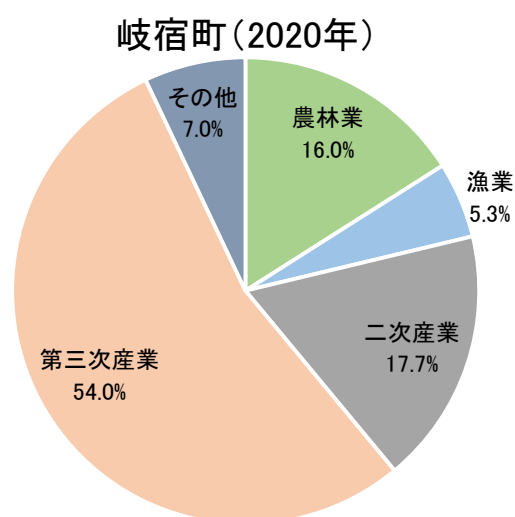
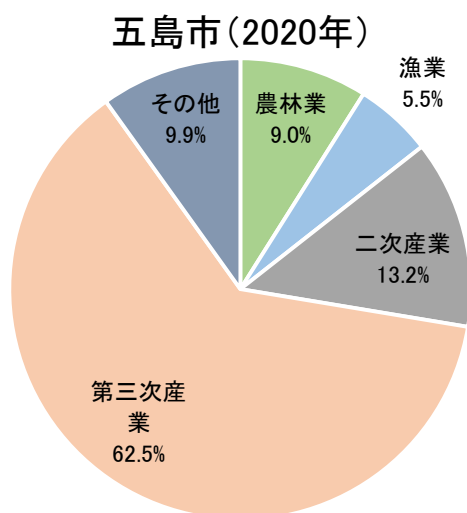
※志田尾は秘匿のため非掲載

（出典）農業センサス

(4) 就業の状況

①産業別就業人口

- ・山内地区では、農業の就業者数割合が 26.8%であり、五島市や岐宿町と比べて高い。また、第三次産業は 49.1%であり、五島市及び岐宿町と比べて低くなっている。



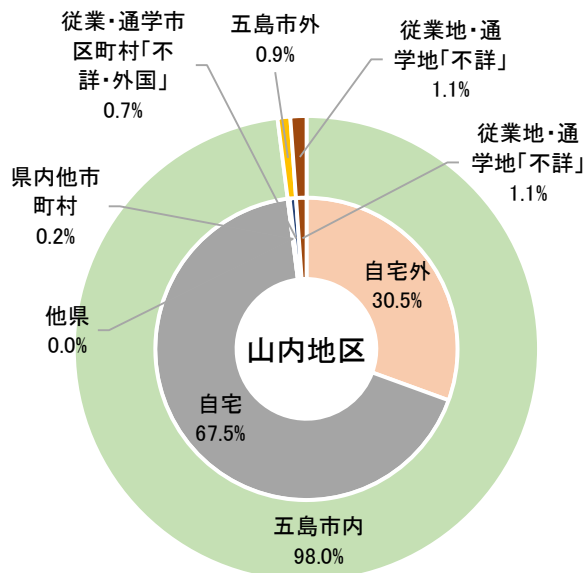
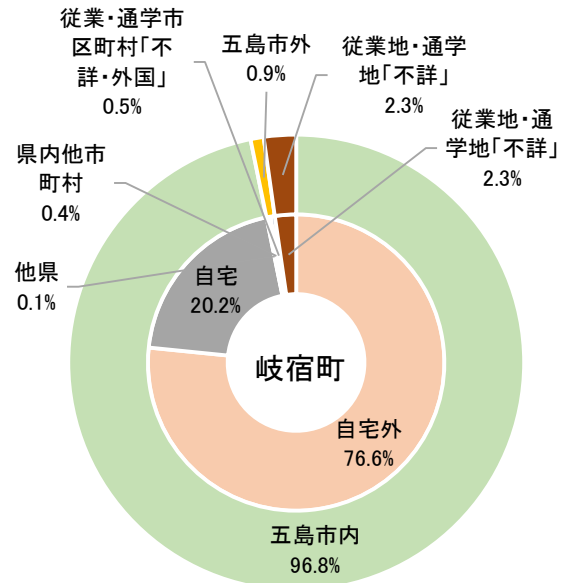
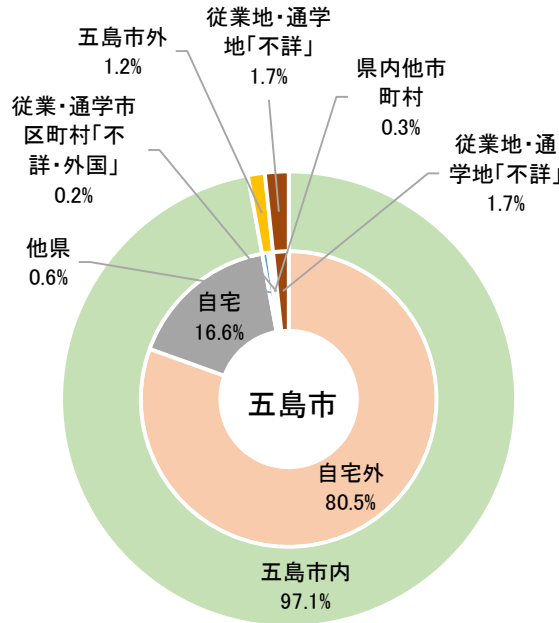
	五島市	岐宿町	山内地区
農林業	1,360	209	121
漁業	827	69	5
第 2 次産業	2,001	232	78
第3次産業	9,478	706	223
その他	1,500	92	25
計	15,166	1,308	452

産業別就業人口の構成比（2020 年）

（出典）総務省「令和 2 年国勢調査」

②就業者・通学者の状況

- ・五島市、岐宿町、山内地区とも、五島市内での就業・通学者割合が 9 割を超えており、離島という地理的特性が現れている。
- ・五島市及び岐宿町では、市内就業・通学者のうち、自宅外の比率が 8 割前後と高くなっている。一方で、山内地区は自宅での就業・通学が 67.5%と、五島市や岐宿町と逆の傾向を示している。



就業者・通学者の状況（2020 年）

	五島市	岐宿町	山内地区
五島市内	14,730	1,266	443
自宅外	12,211	1,002	138
自宅	2,519	264	305
五島市外	181	12	4
他県	94	1	0
県内他市町村	53	5	1
従業・通学市区町村「不詳・外国」	34	6	3
従業地・通学地「不詳」	255	30	5
総数 (常住地による人口)	15,166	1,308	452

（出典）総務省「令和 2 年国勢調査」

(5) 土地利用の状況

① 林地の状況

- ・山内地区の森林は、民有林が 1,782ha で 99.6% を占めている。また、保安林は森林全体の 13.9% (約 248ha) である。
- ・2023 年 4～10 月までの鳥獣被害の状況を見ると、イノシシが 12 件、シカが 56 件確認されており、シカの被害が多い中岳南部 (24 件) と寺脇 (33 件) に集中している。
- ・山内地区内では、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域が 108 箇所あり、松山集落と二本楠集落に比較的多く見られる。

森林種別割合 (2020 年)

	民有林	国有林	森林計	うち保安林
面積(ha)	1,782	8	1,790	248
割合	99.6%	0.4%	100.0%	13.9%

出典：国土数値情報

鳥獣捕獲報告数 (2020 年)

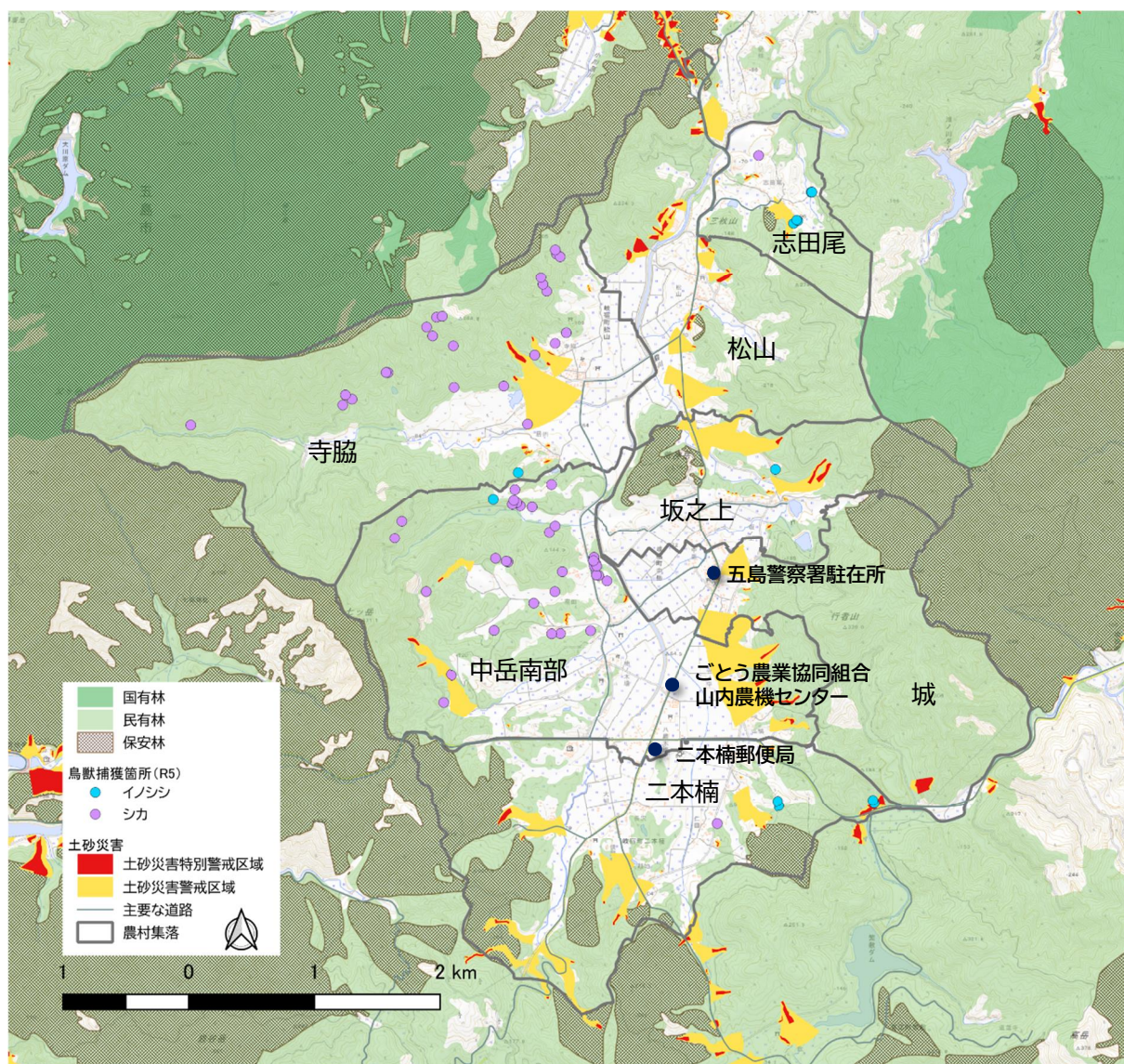
	志田尾	松山	寺脇	坂之上	城	中岳南部	二本楠	合 計
イノシシ	5	0	1	1	0	1	5	13
シ カ	1	0	23	0	0	32	1	57
合 計	6	0	24	1	0	33	6	70

出典：市提供データ

土砂災害警戒区域 (2020 年)

集落名	土砂災害警戒区域			土砂災害特別警戒区域			合 計
	急傾斜	土石流	小計	急傾斜	土石流	小計	
志田尾	4	2	6	4	2	6	12
松 山	15	9	24	16	10	26	50
寺 脇	9	3	12	10	3	13	25
坂之上	10	5	15	10	4	14	29
城	9	2	11	10	2	12	23
中岳南部	8	7	15	8	7	15	30
二本楠	7	18	25	7	15	22	47
合 計	62	46	108	65	43	108	216

出典：長崎県オープンデータカタログサイト



林地の状況

(出典) 国土数値情報、長崎県オープンデータカタログサイト、市提供データ

② 農地の状況

- ・山内地区内の農地は約 582ha、このうち農用地区域は約 436ha であり、寺脇・城集落では農用地割合が高い。中山間地域等直接支払制度交付対象農地は全体で約 296ha、農用地区域の約 68% であり、二本楠集落で対象農地の割合が高い。
- ・平坦部農地の多くは土地改良事業が進んでおり、現在、寺脇集落内農地を中心に実施されている農業競争力強化農地整備事業が完了すると、ほぼ平坦部の農地整備が完了することとなる。また、昭和 40 年代に県が圃場整備事業を実施した地区では、ポンプ等設備更新が計画されている。

集落別農地面積（2020 年）

集落名	農振農用地（全体）		農用地		中山間農地※	
	面積 (ha)	構成比	面積 (ha)	農振農用地に対する割合	面積 (ha)	農用地に対する割合
志田尾	27.5	4.7%	4.4	16.0%	0.1	2.3%
松山	72.8	12.5%	50.6	69.5%	23.2	45.8%
寺脇	104.8	18.0%	88.2	84.2%	54.9	62.2%
坂之上	65.9	11.3%	54.0	81.9%	40.8	75.6%
城	42.8	7.4%	37.6	87.9%	28.6	76.1%
中岳南部	152.9	26.3%	114.6	75.0%	75.0	65.4%
二本楠	115.5	19.8%	86.8	75.2%	73.8	85.0%
合計	582.2	100.0%	436.2	74.9%	296.4	68.0%

※中山間地域等直接支払制度対象農地

出典：市提供データ

③ 空き家の状況

- ・空き家は山内地区内で全 86 件確認されている。志田尾 10 件、松山 13 件、寺脇 7 件、坂之上 9 件、城 8 件、中岳南部 26 件、二本楠 13 件であり、最多の 30.2% が中岳南部に分布している。

集落別空き家の件数（2020 年）

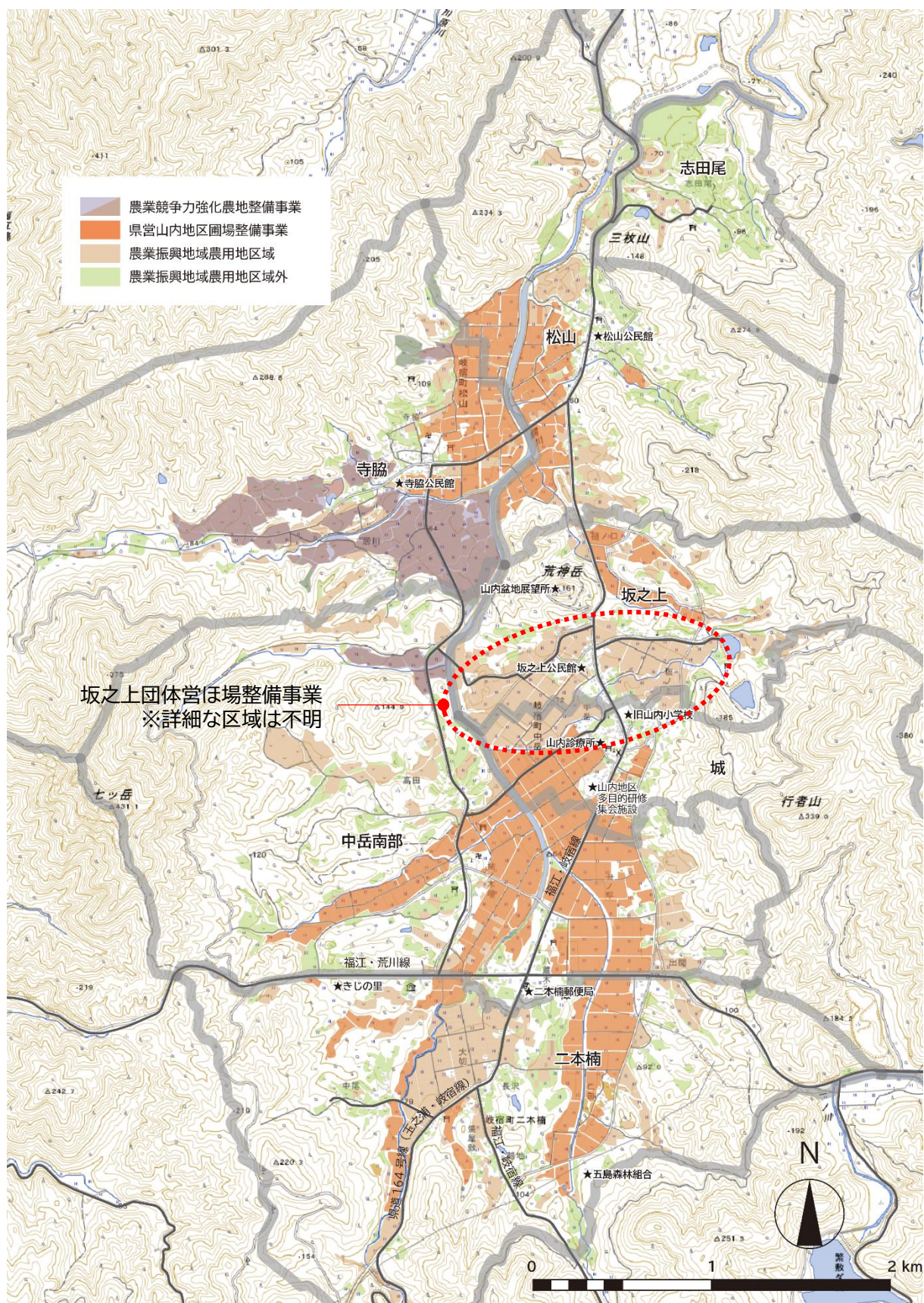
	志田尾	松山	寺脇	坂之上	城	中岳南部	二本楠	合計
空き家数	10	13	7	9	8	26	13	86

出典：市提供データ



※中山間農地：中山間地域等直接支払制度対象農地
農地の状況

（出典）国土数値情報、市提供データ



農業事業実施状況

(出典) 国土数値情報、長崎県・五島市提供データ

(6) 地域資源

① 緑豊かな田園風景

- ・ 山内地区は、海に囲まれている福江島のなかで、山に囲まれた地区であり、盆地が形成されている。
- ・ 鰐川を中心に約 1 km 幅の水田が南北約 2 km の幅で農地が広がっており、地区のほぼ中央にある荒神岳（161.7m）の山内盆地展望所から、一望できる。

② 福江島の地理的中心

- ・ 五島市の中心である福江地区と玉之浦町を結ぶ福江荒川線、岐宿地区と富江町を結ぶ福江岐宿線がとおり、地区南側の二本楠で交差し、福江島内移動にあたり交通の要衝となっている。

③ タヌキアヤメ群落

- ・ 熱帯・亜熱帯の植物で、福江島が北限地となっており、寺脇集落の群落は県指定天然記念物となっている。

④ 付加価値の高い農産物生産

- ・ 農業生産が盛んな地区であり、昔は食用米生産を中心とした農地であったが、現在は黒毛和牛など飼料用作物の栽培が中心となっている。
- ・ この環境を活かして黒毛和牛を繁殖・肥育一貫飼育する農家や、豚の飼育、メロンやいちごを生産する農家もある。
- ・ また、農業生産活動が盛んなことから、地区内に 100 円直売所が数多く設置されている。

(7) 地域課題

① 土地利用面での課題

ア. 農地

- ・寺脇地区を中心に現在も土地改良事業が進められており、営農意欲の高い農家が多いことがうかがわれるとともに、飼料用作物を中心として大規模化・省力化が進みつつある。
- ・一方で高齢化や少子化の影響で、現在の規模の農地を管理できなくなる可能性もあり、これまで農業事業への投資により整備された生産効率の高い農地を生かしきれないことが危惧される。

イ. 森林

- ・周囲を丘陵地に囲まれて、農地とともに緑豊かな田園風景を創出している山林だが、所有者の高齢化により、自ら手入れをすることが困難な状況になっている。これまで集落の共有林で施業していた人からその権利を返還したり、所有している森林の境界が判らなくなっているといった事象も発生している可能性もあり、今後、森林の荒廃が進むことが懸念される。
- ・森林の荒廃は、気候変動とあいまって土砂災害の発生確率を高める恐れがあるほか、鳥獣被害の増加といったことにも繋がってくる。

ウ. 空き家

- ・市調査によると 86 軒の空き家があるとされており、今後、高齢化の進展により空き家の増加も懸念される。
- ・既に集落の中でも、山裾に近い場所で、元々件数が少なかったエリアでは、まとまって空き家が発生しており、地域の防犯面も含めて生活環境の悪化も懸念される。

② 生活環境面での課題

ア. 日常的な買物行動

- ・人口減少の影響もあり、地区内にあった商店や飲食店などが閉店し、地区内でも買物に不便を来している状況にある。今後、高齢化がさらに進み、自ら自動車を運転して移動することが困難な状況になった場合、外出機会が極端に少なくなり、日用品の買物にも影響を及ぼす可能性がある。

イ. 公共交通の利便性

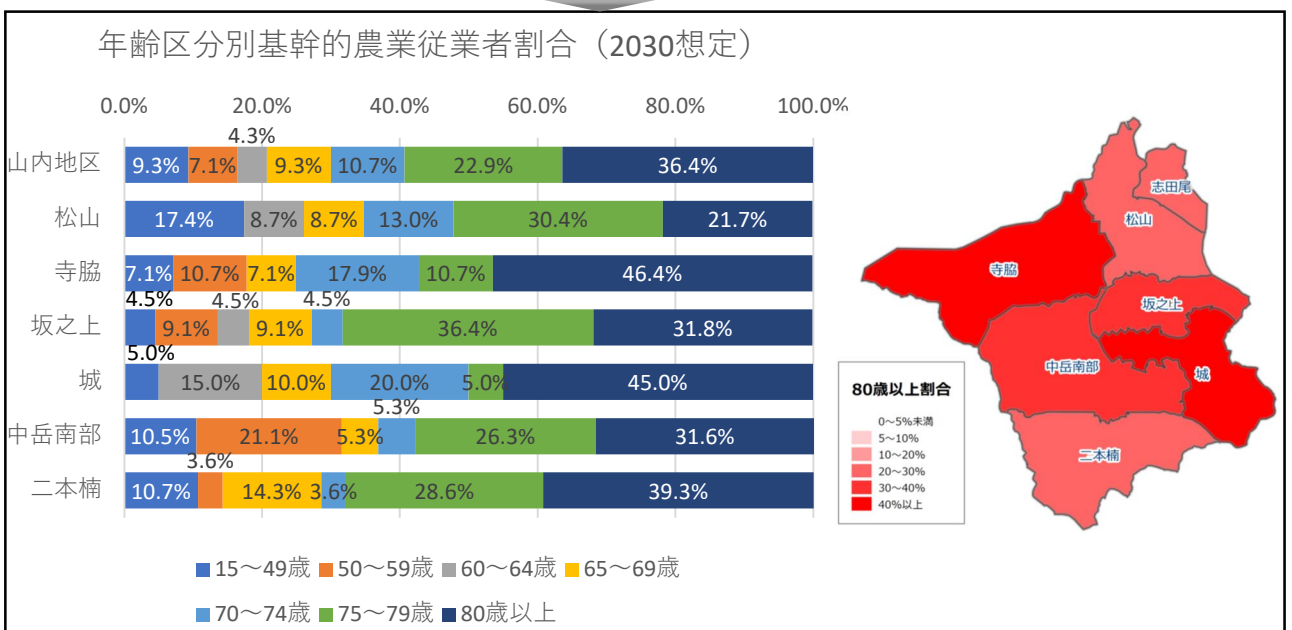
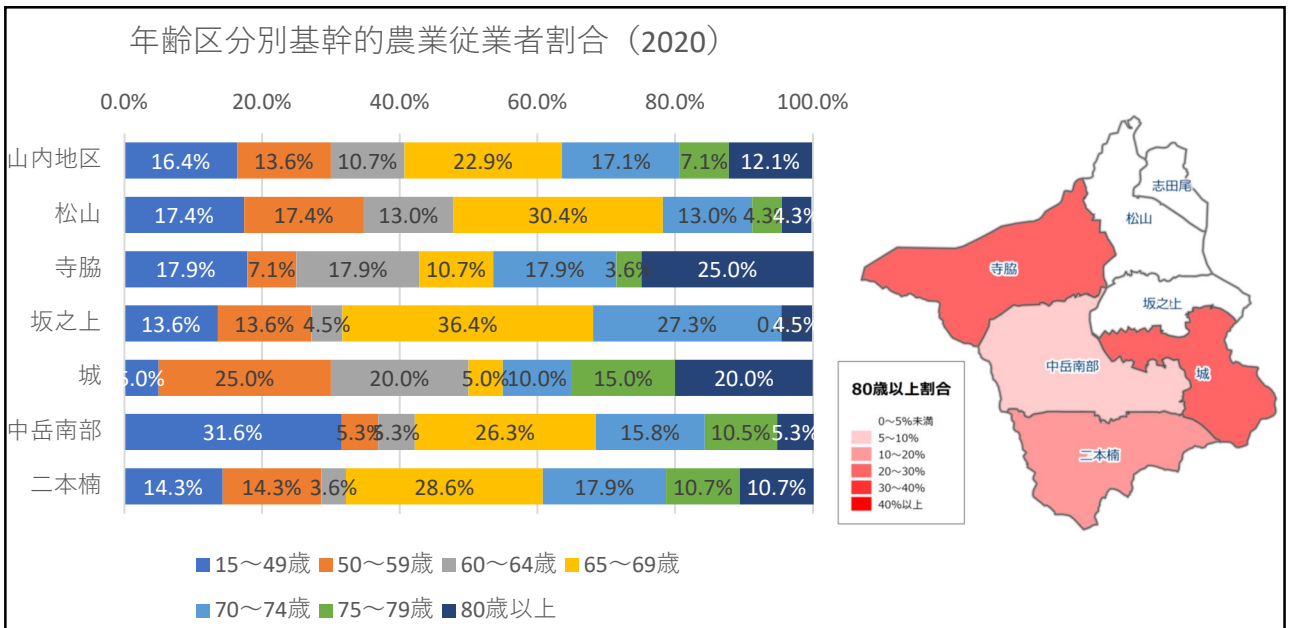
- ・旧岐宿町内を一律 300 円で利用できる電話予約制乗合タクシーの「チョイソコごとう」が運行されているが、利用が伸び悩んでいる。二本楠で乗り換えることにより福江地区方面へも行くことができるが、料金が二倍になる上、15 時以降に利用ができないという制約もある。
- ・路線バスは岐宿地区方面へ 3 往復/平日、福江地区方面へ 6 往復/平日の運行となっており、時間的な制約が大きく、利用が限定されてしまう。

ウ. 高齢者の安全・安心

- ・高齢化が進んでおり、高齢独居世帯も増加している。これまで町内会を中心に高齢者を見守ってきたが、世帯減少により町内会解散も始まっており、見守りの担い手がいなくなる恐れがある。

③ 将来予想される土地利用状況の見通し

- ・農林業センサス（2020 年）の基幹的農業従事者数を、単純に 10 年後にスライドして見ると、80 歳以上の割合が急激に増加し、寺脇集落及び城集落では 45%前後、二本楠集落で約 40%、坂之上集落及び中岳南部集落で約 30%となる。
- ・現在、土地改良事業等が行われた農業振興地域農用地区域では、耕作放棄地がほとんど見られないが、2020 年時点で 80 歳以上の農業従事者は 90 歳以上となり、トラクター等農機の運転が困難になることから、現在と同じような規模の営農は極めて困難になる可能性は否めず、管理が行き届かない農地が発生することは確実である。



年齢区分別基幹的農業従業者割合（2020,2030 年想定）

※志田尾集落はデータ秘匿のため除外

2 地域全体の土地利用の方向性

- ・現状では、農業振興地域農用地区域を中心に生産活動が継続されてきているが、今後、高齢化や人口減少が進み、担い手不足となることも想定される。
- ・このようなことを鑑み、次のような視点で土地利用の方向性を考える。

① これからも積極的に営農活動を行っていくゾーン

- ・山内地区の財産でもある緑豊かな田園風景をこれからも維持していくためには、平坦部に広がる農地で生産活動を継続することが重要である。
- ・これにより、農業が中心となって持続可能な地域づくりを推進することが可能となる。

【抽出条件】

- ・農業事業等が実施されている農地
- ・現在、農業振興地域農用地区域内にある農地

② 地域コミュニティや地域での生活を維持・改善していくゾーン

- ・日常的な生活の場として、既存集落を中心に、地域コミュニティの維持、歴史・文化の継承を進めていく。
- ・また生活利便性の維持・向上に向けて、既に立地している生活利便施設を維持・改善していくとともに、交通利便性の高い場所への新たな機能整備や、既存資源の利活用を進める。

【抽出条件】

- ・既存集落地

③ 地域活動の安全・安心を支えるゾーン

- ・山内盆地を取り囲んでいる森林は、農地と共に緑豊かな田園風景を創出しているだけでなく、営農にかかせない用水を涵養し、土砂災害を防止するといった重要な役割を担っている。また鳥獣捕獲場所も集落周辺の森林でも多く見られており、雑草管理などの対策が必要である。

【抽出条件】

- ・ため池周辺や鰯川等河川沿い
- ・②ゾーン後背の森林

④ 今後の営農活動のあり方を検討するゾーン

- ・基盤整備が行われた、あるいは行われている農地が位置する山内盆地平坦部から、森林に入り込んで谷戸や傾斜地に形成されている農地は、生産活動が行われている農地と管理が行き届いていない農地が混在しているエリアが多く見受けられる。
- ・そこで、今後の人口減少、高齢化も見据えて、地権者だけでなく地域も交えて、営農活動のあり方を検討していくことが必要である。

【抽出条件】

- ・農業振興地域非農用地区域内の農地

⑤ 産業活動を支え、周辺との良好な関係を維持する大規模施設が立地するゾーン

- ・地区内には生産活動を行う、あるいは支援する施設や、再生エネルギーによる発電施設など、様々な大規模施設が立地している。
- ・今後とも地区内で活動を継続し地区の活力維持・向上に寄与していくとともに、周辺との良好な関係を維持していくため、適切な環境を維持していくことが必要である。

【抽出条件】

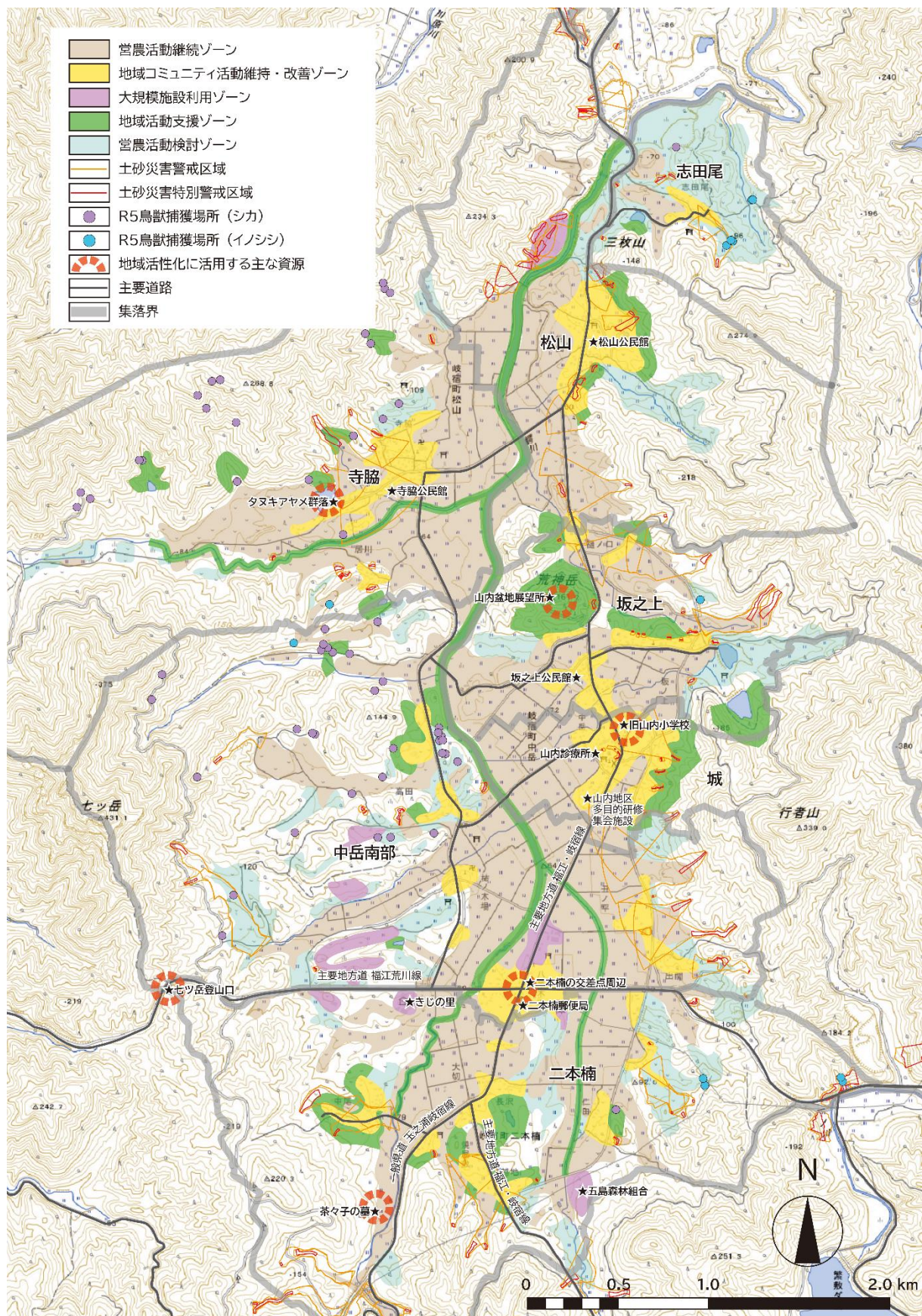
- ・大規模な施設が立地している場所
- ・生産活動などでまとまった土地利用が行われている場所

⑥ 地域活性化に向けて活用を推進する拠点（資源）

- ・地区内には一度は訪れてみたい魅力的な資源が分布しているが、これまで十分な活用が図られていない状況にある。
- ・今後の地域活性化には交流人口拡大は重要な取り組みであり、地域の魅力資源を磨きあげ、観光を含めたそのポテンシャルを活かしていくことが必要である。

【抽出条件】

- ・ワークショップ意見
- ・指定文化財 など



3 実現に向けた行動計画

・土地の適性な利用・管理を推進するため、次のような取り組みが考えられる。

	着手時期 (2024 年度～)				携わる人							備 考
	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目 以 降	住 民		組 織 ・ 団 体			行 政	専 門 家	
					所 有 者 *1	そ の 他 *2	地 域 *3	事 業 者 *4	そ の 他 *5			
01. 集落点検	○				○		○			○		
02. 農地保有者へのアンケート	○				○		○			○		
03. 5 年後の地域農業のあり方検討	○				○	○	○		○	○	○	
04. 地域管理構想の成案化	○				○	○	○			○		地 域 計 画 と の 整 合
05. 農地引き継ぎ相談窓口の設置		○			○		○		○	○		
06. 農業体験の実施			○		○		○					
07. 新規営農者の受け入れ				○	○		○					
08. 竹林駆除計画の策定	○				○		○			○		
09. 竹林駆除の実証	○				○		○		○		○	
10. 竹林の製品化（チップ化）		○			○		○		○		○	
11. 市場調査（試験販売）		○					○	○				
12. 竹林駆除技術の高度化検討			○				○		○	○	○	
13. 技術検定システムの検討			○				○			○	○	
14. 地区外でのビジネス展開				○			○	○			○	

*1：農地・森林の土地所有者

*2：農地や森林を所有していない地区内居住者

*3：岐宿まちづくり協議会山内支部

*4：民間事業者

*5：農協、森林組合等

4 地域としてのルール

- ・土地の適性な利用・管理を継続的に行っていくためには、地域全体が同じ方向に向かい、日常的に生業を進めるなかで取り組みを続けていかなければならない。
- ・そこで、次のようなルールを設定することが考えられる。

① 地域のみなで活動や情報を共有する ～みなが同じ将来像に向かって進んでいくために

〔例〕

- ・アンケートの実施や各種広報を通じて情報を提供する
- ・集落単位の集まりなど、身近なコミュニティで話題にする

② できるところから1つずつ（欲張らない） ～持続的に進めるために

〔例〕

- ・身近なことから取り組む
- ・急がず、順序だてて、少しずつ進める（広げる）

③ 達成感のある取り組みからスタートする ～持続的に進めるために

〔例〕

- ・多くの人が参加できる取り組みから行う
- ・楽しみながらできる取り組みを行う
(ごろっと)

5 実現に向けた取り組み体制

- ・山内地区は、五島市が支援し、岐宿まちづくり協議会山内支部が中心となって地域活動を進めつつある。
- ・今後、農地や山林の適正な利用・管理の推進に止まらず、地域活性化に向けた様々な取り組みを行うことが想定され、市の伴走支援を受けつつも自立し持続可能な体制を構築する必要がある。
- ・そこで、次のような体制が考えられる。

- 岐宿まちづくり協議会の山内支部として活動を実施
- 山内支部の主たる構成は、農業生産法人（農用地保全）、町内会（地域資源活用）、民生委員（生活支援）、若手事業者を中心とするやまぼん会（地域資源活用）とし、公民館分館を事務局と想定 ※公民館分館は令和7年度廃止予定
- 市の地域プロジェクトマネージャー及び地域おこし協力隊（地域協働課）、集落支援員（岐宿支所）が伴走
- 将来は農村 RMO として自立・自走することも視野

